

氏名 赤瀬 柚紀 法科大学院等の在籍年次 3年

*このレポートは主としてこれからインターンシップに行くことを考えている人達に情報提供を行うことを目的とするものです。以下の項目について適宜行数を増やしながらかき込んでいって下さい。文字数及び頁数に制限はありません。

*このレポートは、記名で法学研究科のウェブサイトに掲載されます。もし氏名掲載を希望しない場合には、その旨をお知らせ下さい。

*重要情報についてはできる限り具体的に記載して下さい。また、後輩の方達に向けた率直なアドバイスをお願いいたします。

1 受入事務所と滞在期間

SAGA国際法律事務所（ミャンマー）

2018年8月16日～9月7日

2 事務所の業務・構成・勤務条件及びインターンシップの内容等

事務所について

- ・メンバー数15名（内日本人弁護士2名、ミャンマー人弁護士3名）
- ・日系企業向けの企業法務のほか、ミャンマー法令データベースの管理等の情報提供業務
- ・在ミャンマーの日系事務所では（唯一）法廷活動の取り扱いがある
- ・勤務時間：8時～16時半
- ・タイ、マレーシアに姉妹事務所あり。その他にも開設予定と聞いています。

インターンシップの内容

<業務>

- ・会社法モデル定款和訳
- ・フランチャイズ法のリサーチ及びプレゼン資料の修正
- ・仮処分決定の和訳
- ・自己紹介動画の作成（英）

- ・YouTubeトピック動画（ミャンマーの法令や制度の研究及び報告）の作成（英、日）
- ・社内でのプレゼン（英）
- ・regulation和訳
- ・JV契約書のチェック
- ・期日報告書のファイリング

※なお業務中「和訳」とあるものは、現地メンバーがミャンマー語→英語に翻訳したものをさらに日本語に翻訳する作業。そのため、訳がうまくいかない場合にはミャンマー語→英語の翻訳段階で誤りが生じていないかなどを現地メンバーとやり取りをして確認する必要がありました。

※法令等の「研究」にあたって、ミャンマーでは日本と比較して公的機関からの情報発信が不十分であったり、現地語でしか書かれておらず日本人には理解できないものがあったりしました。その際は現地メンバーにお願いをして、直接公的機関に電話で確認をしてもらったり、現地語情報を英語で教えてもらう必要がありました。

以上のように、業務に際して現地メンバーと協力することも多く、その過程で親交を深めたり英語力を高める良い機会となりました。ちなみに私は英語が全くの初心者であり大きな不安がありましたが、メンバーは自分の拙い英語を一生懸命聞いてくれたのでやり取りをすることができました。またメンバーもゆっくり丁寧に、分からなければ繰り返し、英語を話してくれます。

業務については開始にあたって代表弁護士の堤先生から与えられます。その後も業務の進行に合わせて絶え間なく振られます。決して楽ではありませんが、短期間でも多くの業務に触れることができます。

事務所では自分の希望を積極的に伝えることで、より充実したインターンシップにすることができると思います。業務についていえば、どのような業務を見たい、やりたいということを伝えれば、それに適した業務を可能な限り与えてくださいます。例えば私は裁判にかかわる業務を見たいとの希望を伝えたところ、実際にミャンマーの法廷で出された仮処分決定の和訳作業という仕事を用意してくださいました。また、後述の通り法廷傍聴なども実現しました。そうした意味で上記の業務内容は一例にすぎないと思います。

<訪問など>

- ・ティラワ経済特区内の企業訪問（倉庫見学）
- ・ILO訪問
- ・マレーシアオフィス訪問

- ・ JICA法整備専門家の訪問（ネピドー）
- ・ 地方裁判所での法廷傍聴
- ・ その他、会食として在ミャンマーの方との交流

（個別のお名前を挙げることは控えますが、本当に多くの方にお会いできます。）

期間中は単に事務所業務に従事するのみではなく、企業等の訪問や在ミャンマーで活躍する多くの日本人（場合によっては日本人以外の方も）にお会いする機会があります。現地で働かれる方から直接にお話を聞けることは、ミャンマーあるいは広く外国について学ぶ良い機会となります。現地企業の方の考えていることを苦勞も含め聞くことができ、日本企業がミャンマーなどに海外展開することの意義や大変さ、日本とミャンマーという二国間の関係について知ることができました。ILOのような国際機関を訪問することも、多様なキャリアに触れる良い機会となります。

また上記のうち、ネピドーへの訪問、マレーシアオフィスへの訪問、法廷傍聴についてはインターン生側から希望を出したことで、実現しました。SAGA国際法律事務所では、お忙しい中にもかかわらず学生の希望に対して最大限のフォローをしてくださいます。

私はミャンマーに来る以前から法整備支援に関心があり、代表の堤先生のご紹介によって、専門家の方を訪問することができました。ネピドーは若干遠くはありましたが、本当に勉強になる訪問でした。（ちなみにネピドーはミャンマーの首都です。私は浅学だったので今回の訪問で初めて知りました。）

個別の訪問で学んだことや意義を挙げればキリがありませんので本紙での紹介は以上になります。要するに、刺激を受け、学ぶことができる機会が多くあります。

<業務全般>

事務所内の雰囲気は非常によく、安心して業務に取り組むことができます。特にメンバー同士の仲がよく、困ったことがあれば気軽に他のメンバーに話しかけることができます。英語力があるに越したことはありませんが、英語力の不足という理由で全く業務をすることができない状態に陥ることはありません。

3 宿舎及びその他の生活環境について

滞在先

宿泊先：ホテルGヤンゴン

費用は高いですが、本当にいいホテルです。（おまけに事務所から徒歩1分程度だったので、皆さんが行く頃の新しい事務所には徒歩10分程かかるかと思います。
清潔で、ロビーにレストランがあり、朝食が美味しく、備品もそろっています。
ミャンマーにも関わらず、停電することもほとんどありません（私は経験しませんでした）
充実したフィットネスセンターもあります。

その他の生活環境

総じて、想像以上に「普通に住める」と感じました。

○食事

外国人向けの飲食店が多くあるので、そこを利用することで大きくお腹を壊すことはありません。現地料理を取り扱うお店以外にも、日本食（けっこうな数の店舗があります）や中華なども複数あるためこうしたお店を利用することも多かったです。なお昼食はインターン生同士で食べることも多かったですが、可能な限り現地メンバーと行くことをおすすめします。またお弁当を持参しているメンバーもいるので、たまには所内で食べたりするとよいと思います。

水については気を付けました。たぶん水で身体を壊す人が多いと思います。ミネラルウォーターを利用しましょう。

カフェがけっこうあるので、カフェが好きな人は是非行ってみてください。

○気候

雨季の時期でしたが、思ったよりも雨で困ることが少なく、日本より涼しく快適でした。ただ曇りの日が多いです。乾季だとまた違うかと思います。

○買い物

不自由を感じることはまずありません。街中にあるコンビニなどでも水やお菓子などを買うことができますし、なによりも大型のショッピングセンター（ジャンクションシティ、スーレースクエアなど）を利用すればほぼすべてのものが揃っています。日本製品も多いので、買い忘れがあれば現地調達できると思います。

なおショッピングセンターは外国人価格なので、特にお土産など安く買いたい場合には現地のお店に行くといよいと思います。私は現地のスポーツショップを訪れてサッカーユニフォームやチンロンボールなどを、日本と比べると驚きの安い値段で購入しました。

ミャンマーでは、お店に入ると店員さんがめちゃくちゃ横に張り付いてきますが、それが現地流の接客らしいので気にせずゆっくり買い物しましょう。

○体調管理

私の場合は、滞在4日目で39.5度を超える熱が出て生きて帰れないかと思いました。

(けっきょく生きて帰れました。) ただの疲労熱です。

体力に自信があるかにかかわらず薬の準備はしていくとよいと思います。風邪薬、解熱剤、咳止め、胃腸薬など。ポカリスエットはほとんどのお店で買えます。冷えピタやマスクがほしい場合は、ジャンクションシティ又はスーレースクエアに行ってください。

体調不良が酷く病院を受診した場合には、事務所の先生が現地の日本人医師を紹介してくださるそうです。 必要なときは遠慮なくお願いをした方がよいと思います。

○観光

様々な場所を訪れることは純粋に楽しいとともに、ミャンマーをより知ることに繋がると思います。是非、観光も楽しんでください。 (事務所からも、土日にはしっかり敢行することを推奨されます)。宣伝の意ではありませんが、キンキントラベルという日本語対応の現地旅行会社が、本当に親切かつ安心感があります。

○その他生活について

野犬が多く怖いのは間違いないです。ただ何もしなければ噛まれることはないです。野犬の前で食べ物をちらつかせることは避けた方がよいかもしれません。

また道路の側溝が空いていることなどもあるので、歩く際には一応注意してください。

現地では車優先ですので、轢かれないように注意して横断してください。慣れてくれば大丈夫です。

日本と比べるとインフラが不十分ですが、危険を感じるほどではありませんでした。

ミャンマーの方は皆さん本当に親切です。

○注意事項

ドルはピン札でないと扱ってくれませんので、くれぐれもピン札のドルを用意

4 出発に向けた準備等について

英語については、3L前期にKeith Carpenter先生のintroduction to legal Englishという授業 (LS配当科目ではない) を履修しました。また通学時間を利用して「どんどん話せる瞬間英作文トレーニング」という本で勉強を試みました。ただいずれもLSの授業に追われて十分にできなかったのも、英語の対策はほとんどできていなかったと思います。本来であれば英語力を向上させて行くことが望ましいです。

旅行以外で海外に行くことは初めてだったので、荷物の準備は大変でした。

5 インターンシップに要した費用

以下概算

<事前費用・固定費用など>

予防接種 7万円

(狂犬病、腸チフス、破傷風、A型肝炎) ※全然必須じゃない

航空費

日本⇄ミャンマー 6万円

⇄マレーシア 2万円

⇄ネピドー (国内) 2万5千円

ホテル 15万円 ※高めのホテルだったので

ビザ代金 1万2千円

現地観光費用 (旅行会社) 1万5千円

その他荷造りに要した費用 3万円

<現地で使った費用>

現地紙幣に両替したもの 300USD

その他カードで支払ったものを含めても、日本円にして 合計4万円 程度

6 これからインターンに行く人達へのアドバイス等

参加に当たってのアドバイスは、上記までに適宜記載してあります。

改めて2点お伝えします

①主体的に参加し、積極的に希望を出すこと

もちろんインターンに参加するだけで得られるものは多いですが、せっかくの機会なのでインターンでなにを学びたいか、あるいは自分の興味関心に合わせて、希望を出して活動をつくっていくと良いと思います。SAGA国際法律事務所では、そうした希望に対して熱心に応えてくださいます。

②まずは挑戦してみること

英語力への不安、司法試験に向けた勉強への不安、海外 (しかもミャンマー) に行くことへの不安と、多くの不安があると思います (自分がそうでした)。しかし事務所メンバーは非常に親切ですし、とても良い国なので、不安を乗り越えて充実した活動ができると思

います。英語力についても、一定程度あることが本来は望ましいですが、気合いさえあれば大丈夫です。

7 インターンシップの有用性等に関する評価及び感想

3週間という短い期間でしたが、本当に充実した時間を過ごすことができました。
この期間中で、特にインターンシップに参加する意義を感じた点を3点挙げます。

(1) 海外に挑戦することへの恐怖心が消えたこと

これまで国際法務に関心はありましたが、大学時代に留学などに行っていなかったことがコンプレックスであり、また総じて海外経験が少なかったためなかなか挑戦することができませんでした。しかし今回実際にインターンシップに取り組んでみて、もちろん力が足りない部分はたくさんありますが、それでもある程度、自分の今の実力でもやっていけるという自信ができました。また特にミャンマーという国で3週間を乗り越えられたということで、他の国に行くことにも抵抗がほとんどなくなりました。

今後、自分が希望する国際法務を取り扱う進路に向けて、諦めることなく邁進できると思います。漠然とした恐怖心や遠慮を打ち破る機会とできた点で本当に有意義でした。

(2) 外国語・外国法の勉強についての指針を定められたこと

現地に行くまでは、自分に足りないのは「話す英語」だと思っていました。しかし実際に行ってみると「正確に読み書きする力」が特に重要だと痛感しました。

法律を扱う以上、言葉の正確性には十分に配慮する必要があります。そのため書面上、正確に英語で読み書きすることができることが必要だと感じています。また単純な読み書きではなく、法律の専門用語を扱うことも多くあります。今回実務に触れられたことで、何のために外国語を学ぶのかということがより明確になったと思います。今後の外国語の勉強に際しての指針が定まった点で、インターンシップに参加することは有用です。

(3) 「国際法務」のイメージを固められたこと

漠然と、法律家として英語を使って仕事がしたい、あるいは海外企業や外国を相手に仕事をしたいというイメージしか持っていませんでした。しかし実際にインターンに参加することで、その内実がより具体化できたと思います。そしてそのうえで、自分が将来どのような進路を目指すかということを再考できた点で、大きな意義があったと思います。

現地メンバーと英語でやり取りをする中でも、前提とする価値観や文化、法的知識が異なるために最初は話がかみ合わないこともありました。日本法の知識や、それを英語でやり取りする能力だけでは足りず、相手の国の法制度や文化、価値観を理解すること（理解しようとする姿勢）が必要だと知れた点も、インターンシップに参加した意義のひとつだと思います。

す。

(4) 最後に

私の拙い文章力では伝えきれないほど多くのことを学び、経験と刺激を得ることができました。そしてなによりも、今回出会えた人との関係が、今後の糧になると思っています。

この場をお借りして、今回のインターンシップへの挑戦を支えてくださったSAGA国際法律事務所をはじめ現地の皆さま、大学関係者の皆さんに心から感謝申し上げます。

そして参加を検討している全ての方が、インターンシップに挑戦をして多くの経験と学びを得ることができるよう期待しています。がんばってください。